

日本英文学会中部支部 第60回大会プログラム

日 時：2008年10月18日（土）・19日（日）
場 所：信州大学人文学部（松本キャンパス）

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

TEL 0263-35-4600（代表）

TEL 0263-37-2257（大会当日のみ）

第一日目 10月18日（土）

1. 開会式 [第4講義室]
開会の辞 支部長 橋本 功
会場校挨拶 信州大学学長 小宮山 淳
2. 総 会 [第4講義室]
14:30~14:50
3. シンポジウム
第1室（文学）[第1講義室]
15:00~17:30
ダンディズム、その主題と変奏
—今、ダンディズムとは？そして粋とは？—
司会・講師 山口 和彦（信州大学准教授）
講師 堀田 敏幸（愛知学院大学教授）
講師 清水 明（信州大学教授）
講師 飯岡 詩朗（信州大学講師）
講師 柳下町 伸一（文化ファッション大学院大学教授）

- 第2室（英語学）[第2講義室]
日英語における相同性を考える —＜有界性＞と＜無界性＞—
コーディネーター 花崎 美紀（信州大学准教授）
講師 花崎 一夫（信州大学准教授）
講師 八木橋 宏勇（杏林大学助教）
講師 谷 みゆき（立教大学教育講師）
講師 多々良 直弘（桜美林大学講師）
- 第3室（早期英語教育）[第4講義室]
早期英語教育（0~12歳）の是非
司会 奉 鉦京（信州大学准教授）
講師 有路 憲一（信州大学講師）
講師 白畑 知彦（静岡大学教授）
講師 寺尾 康（静岡県立大学教授）
講師 若林 茂則（中央大学教授）

4. 懇親会 18:00~20:00
[信州大学 人文学部 新棟6階 会費4,000円]

第二日目 10月19日（日）

1. 特別シンポジウム 9:00~11:30 <公開>
[第4講義室]
英語教育における小中連携をめぐる課題
司会 伊原 巧（信州大学教授）
講師 松川 禮子（岐阜県教育委員会教育長）
講師 徳武 隆夫（裾花中学校教頭）
講師 白井 伸明（長野県教育委員会指導主事）
2. 特別講演 13:00~14:30
[第4講義室]
人文学研究における作業仮説としての＜相同性＞
司会 花崎 一夫（信州大学准教授）
講師 池上 嘉彦（東京大学名誉教授・昭和女子大学教授）
3. ワークショップと研究発表 15:00~17:10
ワークショップ
第1室 [第4講義室]
Theory into Practice: Issues in the Classroom
1. Speaking to Write and Writing to Speak
信州大学外国語准教授 Jonathon Adams
2. Building and Maintaining Good Relations between JTEs and AETs
信州大学外国語准教授 Sean Mehmet
3. Loan Words in Japanese
信州大学外国語准教授 Mark Brierley
- 研究発表
第2室 [201演習室] 司会 篠 三知雄（三重大学名誉教授）
1. A.A.ミルンのハート「心情」とアート「技巧」
—ライト・ヴァースの有効活用について—
金城学院大学大学院博士課程 田中 杏樹
司会 伊里 松俊（愛知県立大学）
2. ある港町の物語 —ゴールウェイ—
岐阜大学准教授 内海 智仁
3. 女のまなざしを通した歴史
—ポーランドの「Object Lessons」—
愛知淑徳大学大学院博士課程 若尾 梓
4. ポウエンの描く家と女性 —『最後の九月』を中心に—
長野県看護大学講師 松井 かや
- 第3室 [202演習室] 司会 平林 美都子（愛知淑徳大学）
1. Aurora Leigh における詩人の使命と女性の使命
豊橋技術科学大学准教授 田村 真奈美
2. Elizabeth Barrett Browningの求めた真実の愛
—ポルトガル語からのソネット集を中心に—
金城学院大学大学院博士課程 足立 恵
司会 鈴木 俊次（愛知学院大学）
3. The Years における物と内面
中京大学大学院博士課程 中沢 まゆ子
4. 英米の女性推理小説家たち
—A.K.Green から P.D.James まで—
金城学院大学大学院博士課程 藤田 祥代

- 第4室 [204演習室] 司会 本間 武俊（金沢大学）
1. フロストの信念
—ウィラ・キャザーの *The Professor's House* の中で—
愛知淑徳大学大学院博士課程 平山 千鶴子
2. Carol B. Schoen の *Anzia Yezierska* について
愛知学院大学非常勤講師 石田 理可
3. *The Great Gatsby* に描かれた女性たち
信州大学大学院修士課程 森木 順子
- 第5室 [第3講義室] 司会 玉崎 紀子（中京大学）
1. The Feminine Figure in Oscar Wilde's Fairy Stories
愛知学院大学大学院博士課程 林 淑恵
2. L. Frank Baum の *Oz* シリーズにおける人間・生物と機械の境界
信州大学大学院准教授 金子 史彦
司会 飯岡 詩朗（信州大学）
3. サルバドル・ダリの視点から見る『白い恐怖』(1945)
愛知工業大学非常勤講師 岩塚 さおり
4. 現代ロマンティック・コメディにおける病理
—『奥様は魔女』(Bewitched, 2005) を中心に—
信州大学大学院修士課程 伊東 有紀
- 第6室 [第1講義室] 司会 守屋 哲治（金沢大学）
1. 接頭辞 *over-* と *under-* の比較研究
—フレーム意味論の観点から—
愛知大学助教 鬼頭 修
2. 前置詞句と間接的主题役付与
愛知教育大学准教授 浜崎 通世
司会 村田 明（信州大学）
3. なぜ縦長円は左回り、横長円は右回りに書くのか？
—書き順5原則について—
福山女学園大学教授 加藤 主税
4. *will, would* の意味論
常葉学園大学専任講師 梅田 泰
- 第7室 [第2講義室] 司会 都築 雅子（中京大学）
1. *There* 存在構文の定性制約に関する機能主義的分析
愛知県立大学准教授 大森 裕實
2. 英語の結果構文における意味拡張について
静岡大学大学院修士課程 新妻 明子
3. 結果としての結果構文
信州大学教授 加藤 鉦三
- 第8室 [第5講義室] 司会 高橋 涉（信州大学）
1. 語用論的動機付けを必要とする構文について
筑波大学大学院博士課程 大澤 舞
2. なぜメトニミーは動詞を中心とした語のタイプ・シフトによ
って生成されるのか
信州大学非常勤講師 大月 敦子
3. 英語学習者へのプロソディー指導の一例
—VT 法を活用して—
名古屋学院大学講師 浅野 涼子
4. 閉会式 [第4講義室] 17:20~17:30
閉会の辞 副支部長 清水 明
主催 日本英文学会中部支部